

今回の一流塾は、講師に岩田彰一郎氏(アスクル㈱ 代表取締役社長兼CEO)、村井勝氏(TXアントレプレナーパートナーズ代表、元コンパック会長)をお迎えしました。



岩田氏は、『Web時代のマーケティング』と題し、アスクルがお客様志向を成長エンジンとし、“社会最適”の流通モデルを構築してきた経緯を、創業時のエピソード等を交えてご紹介頂きました。また、20世紀末の約10年間で流通構造に劇的な変化が生じ、21世紀は業種の垣根を越え新たな競争が始まっている。ノンコア業務の外注化、循環型社会の到来、日本からアジアへ、といった経営の環境の変化に対応して、お客様志向で対応しなければならないとの見解を示し、「お客様のために」を進化させるアスクルの新たな取り組みをご紹介頂きました。塾生からは、「顧客志向の大切さを改めて再認識した」、「お客様の要望に応えるチャレンジ精神、パイオニア精神に感銘を受けた」等の声が上がられました。

村井氏は、『日米経営比較 - グローバル経営のデファクトスタンダード』と題し、人事部門、財務部門の位置付けを切り口とし、日米の経営方式の相違に関する分析をご披露頂き、IBM、コンパックを例として、垂直統合型企業と水平競業型企業の経営環境の変化に対する対応事例をご紹介頂きました。また、破壊的なイノベーションによりコンピュータの価格は急速に下落しているが、相対的に人件費は割高となり企業経営における「人の価値」が大きく変化している。経営者はこのような社会構造の変化、環境の変化に速やかに対応できなければならない、と檄を飛ばされました。塾生からは、「経営環境の変化、スピードに対応することの必要性を改めて認識した」との声が多く上げられました。



また、講義後の懇親会では、老川祥一氏(株読売新聞東京本社 代表取締役社長 編集主幹)を特別ゲストとしてお迎えしました。老川氏は政治の劣化が叫ばれているが、その背景には日本社会の地殻変動が起こっている。政治家のリーダー像についても色々意見があるが、本来その時々に必要なリーダーの資質は異なるものである。我々は教養を身につけ、人を見極める「判断力」を磨かねばならないと、持論をご披露頂きました。塾生からは、講師、ゲストからそれぞれに「人材」に関する話があり、改めて「人材」の大切さを考えさせられた、等の声が上がりました。